

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104241
法人名	株式会社クロスサービス
事業所名	グループホームむく
所在地	愛媛県松山市西野町甲434-1
自己評価作成日	平成21年6月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者が思っていること感じていることについて、気づこうとする努力をスタッフ一同が行っています。一人一人のスタッフが、ご利用者と向き合い、ご家族と向き合い、自分と向き合うことで何が大切であるかを日々振り返りたいです。『むく』という場所で、ご利用者が自然と安心して、ご自分の住まいとして過ごせるような環境となることを目指して努めていきたいと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

玄関前には花畑があり、と年にはいろいろな種類の夏野菜が育っていた。ボランティアの方が手入れを手伝ってくださっている。玄関には西野町婦人会の方が作成した水彩画の作品が飾られており、2か月に1回掛け替えに来てくれている。ユニット入口には、職員紹介の顔写真が掲示されており、ご家族や来訪者が見ておられるようだ。テレビや外の景色がよく見えるようにソファが置かれてあり、窓を開けて風通し良くされていた。ご自分がトイレに行っていた利用者が、失敗するようになった時には、いろいろな視点から観察して、ご本人ができることをアセスメントして、いきなり紙パンツにすることなく、感覚等も大事にして支援されている。「トイレ誘導を習慣的に早目にしてしまうと尿意を感じなくなってしまう」こともあり、排泄の間隔等も把握し、ご本人の素振りにも注意して、ご本人の力を活かして気持ちの良い排泄ができるような支援に努めておられる。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年7月8日

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	2. 利用者の2/3くらい	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	2. 家族の2/3くらい
		3. 利用者の1/3くらい	4. ほとんど掴んでいない			3. 家族の1/3くらい	4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある	2. 数日に1回程度ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	1. ほぼ毎日のように	2. 数日に1回程度
		3. たまにある	4. ほとんどない			3. たまに	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらい	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	1. 大いに増えている	2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらい	4. ほとんどいない			3. あまり増えていない	4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらい	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)	1. ほぼ全ての職員が	2. 職員の2/3くらい
		3. 利用者の1/3くらい	4. ほとんどいない			3. 職員の1/3くらい	4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらい	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらい
		3. 利用者の1/3くらい	4. ほとんどいない			3. 利用者の1/3くらい	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらい	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	2. 家族等の2/3くらい
		3. 利用者の1/3くらい	4. ほとんどいない			3. 家族等の1/3くらい	4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらい				
		3. 利用者の1/3くらい	4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームむく

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 越智 哲哉

評価完了日 22年 6月 24日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) スタッフミーティングで皆で理念を作り上げている。スタッフ一人一人が個人ファイルを所有し、その冒頭に入れることで日々確認したり、事業所の入口に掲げることで意識出来る環境作りに努めているが、職員の理解度には差がありまだまだ十分とは言えない。	
			(外部評価) 事業所の基本理念をさらに具体的に共有して取り組めるよう「目指すこと・頑張りたいこと」を中心に、ユニットごと職員全員で話し合い、それぞれ具体的な理念を作成されている。「理念を文章として覚えるのではなく」職員の個人ファイルの1ページ目に挿んで「日々のケアの中で職員が疑問や迷いがあった時に、照らし合わせて確認できる」ようにされている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の方がボランティアでコーラスに来て頂いたり、町内の婦人会の方が絵画を描いてそれをむくの玄関に飾らせて頂いている。また、おやつをご利用様と作り(団子やケーキ)ご近所の方に届けると、畑で出来たお野菜を頂くなど昔ながらのお付き合いをさせて頂いている。	
			(外部評価) 回覧板からや民生委員の方に地域の情報を教えていただき、地域の行事に利用者と参加されている。地域向けの「むく通信」で事業所の様子を知って頂く取り組みをされている。利用者で作ったお菓子やコロケ等を近所の方におすそ分けされたり、お返しに野菜を頂く等のやり取りが続いている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域向けの新聞を年に2回制作して認知症の方への理解を深めて頂けるよう努めている。また、昨年8月の運営推進会議では認知症の方を知って頂くために県の実践者研修の内容を一部抜粋してご参加の方にお伝えしました。皆さま、認知症の方の気持ちについて考える機会となりました。しかし、日頃からまだまだ伝えていかなければならないと思います。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>火災訓練を運営推進会議で行う事で、ご近所の方への応援要請を実際に行ってみることが出来ました。また、地域で行っている行事のお知らせをその都度頂き、ご利用者様と参加する事が多くありました。ご家族さんにも参加頂き、ホームの過ごし方や認知症について一緒に考えたり理解をお互いに深められるよう努めています。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議時、地域の情報を教えていただく中で民生委員の方から地域の「コーラスボランティア」を紹介いただき、さっそく招き、その歌声に利用者の笑顔が見られたようである。会議に参加したご家族からは「事業所だけでなく、地域の方達にも支えられているということがよくわかった」と感謝の言葉をいただいた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議や事業所連絡会、実地調査のタイミングで事業所で取り組んでいる事をお伝えし、他のホームの実情や制度上の事など確認すべきところをお聞きし協力関係を築くように努めています。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>松山市事業所連絡会や久谷地区のグループホーム連絡会に、市の担当者や包括支援センターの担当者の参加があり、意見交換をされている。市が作成する地域のマップに、グループホームの場所にもマッピングしてもらうように、地区の5グループホームでお願いされた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>虐待防止の勉強会のタイミングで 言葉の抑制 薬の抑制 身体の抑制について確認することで、同時に身体拘束についての学びも行っています。 ・夜間の防犯の為に施錠以外は常に入口を開放しておりご利用者様が自由に行き来できる環境を整えています。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>身体拘束についての研修では「利用者の行動の危険性」に焦点を当てるのではなく「どうしてそうしたいのか」を中心に考えるようにされている。「行動を観察・分析・予想することで対応が可能となり、結果的に安全につながる」と話しておられた。安全への不安を感じておられるご家族には「100%安全ではないが、利用者の気持ちに沿ったケア」を理解していただくように説明されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止に関する勉強会を年に一回行い、不適切なケア(虐待とは言えないが適切とは言えないケア)について確認をしています。ミーティングやカンファレンス、その他の話し合いでも事例に即して不適切なケアになっていないかの話し合いを行い、日頃のケアでも各個人で考え方の違いはあるが職員間の話し合いや上司への相談を行いながら注意して防止に努めています。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 全体での勉強会は行えていないが、個々に学んでいる状況です。 ご利用者様で活用が必要な方は、関係者の方と話し合う場面を作っています。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項の説明は、入居前のご契約でご説明をし変更があればその都度、家族会や個別の面談の機会を設け説明をしています。遠方の方には書面で送付し電話にてしっかり説明をしてご理解、納得いただけるよう努めております。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や運営推進会議を利用して意見が反映できるように努めております。昨年度は、意見がよりやすいように事業所独自のアンケートを作成し送付。その結果をミーティングで話し合い検討しています。	
			(外部評価) 事業所は「ご家族が事業所に十分意見を言えているだろうか」との思いで、3月に事業所独自のアンケートを実施し、6割のご家族の回答を得られた。ご家族の行事参加については、招いた際の対応や、又、ご都合で来られないご家族への声かけや対応等について、配慮や工夫がむずかしい面もあるようだ。	実施したアンケートの結果を活かす工夫や、又、ご家族との信頼関係を深めらえるような取り組みを重ね、今後ともご家族の心情も踏まえながら、ご意見を引き出す工夫を重ねていかれてほしい。たとえば、病院受診等、ご家族の要望・事業所の方針等について、話し合うような機会も作ってはどうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員が意見を言いやすい環境作りに努めています。ミーティングなどで、些細な疑問も言いやすい雰囲気を作り、必要があれば法人全体の会議に手話し合えるような仕組みがあります。	
			(外部評価) 全職員が自己評価に取り組み、管理者がまとめて、さらに、職員個々が、まとめた自己評価について自分の考えと違っていないか確認された。月1回のミーティングでは、介護する立場での意見でなく、利用者の立場に立った意見が多く出されるようになったようである。職員は「将来自分が入りたいホームにしたい」「最期をその人らしく過ごせる場所になることを目指している」と話されていた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 係りや担当を明確にし、個別のファイルを作成することでいつでも自分の目標や実績、評価が残せるようにしています。年二回の人事考課と三カ月に一回のOJT面談を通してスタッフの頑張りが給与水準に反映できやりがいが持てるような環境に努めています。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所の年間研修計画を作成すると共に、職務基準に合わせた個別の研修計画を作成しています。三ヶ月に一回のOJTを実施し、日々のケアを振り返るトレーニングを行っています。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 法人内の他グループホームや小規模多機能施設と相互研修を行ったり、ケア向上委員会やリーダー会等の合同の検討会の機会を設けています。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 可能な方は、ご利用前の見学の段階でゆっくりと会話できる時間を持ち、ご本人の思いを伝えられるように努めています。入居後も、ご本人の思いを尊重して早く安心して過ごせるよう不安や気持ちを丁寧にお聞きし馴染みの関係が築けるよう努めています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 基本情報をご家族様とご本人様のご協力を得て作成することで、ご希望やご要望が反映できるような仕組みを作っています。また、こちらの力になりたいと思っている気持ちを伝えて関係が築けるように努めています。	
17		初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初めての面談では、グループホーム利用をする事を前提としてお話をお聞きするのではなく、誰が何にどうしてお困りなのかをお聞きする事を目的として面談を行っています。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 畑やお花のお世話や、調理や掃除などの家事といった生活自体をご本人とスタッフが一緒に行う事で、お互いに学んだり興味が湧いたり助け合えるような雰囲気作りに努めています。	
19		本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族に参加して頂ける行事を計画し共に過ごす時間を持つようにしています。また、ご家族の面家事には、ご家族と会われた時のご様子と、普段のご様子の違いをお伝えし、共にご本人を支えている事を再確認するようにしています。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ちょっと離れた所であっても馴染みの美容室であったり病院であったり、昔好んで食べた好物のお店へ行くなど関係を重んじています。ご家族さんとは、電話やお手紙を使ってご家族さんとのやり取りができるようにしています。それに対して絵手紙や贈り物が届いたり、時には遠方のご家族様がむくに来て泊まって下さる事もあります。 (外部評価) 利用者の生活の歴史を「生まれた頃・育った時期・家庭を持ってから・入居されるまで」と時代に分けて聴き取るようにされている。ご自宅近くの美容院を利用されている方は、職員が予約を取って送迎したり、友人がデパートの弁当を買って面会に来られることもある。利用者の中には、ご自宅に戻った際、近所の方が「帰ったの?」と集まって来られて、おしゃべりを楽しまれている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) なるべくご利用者様同士の会話を見守り、雰囲気を見て間に入り関係が作れるよう支援しています。また、ご利用者様同士が入居し始めの方や不安そうにされている方に気を使って話しかけたり慰めている場面もみられます。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ここ1年間、お亡くなりになったケース以外のサービスの終了はありません。 入院された際は、他のご利用者様と一緒にスタッフがお見舞いに行くなど、関係が切れないようなフォローに努めております。	
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中でさりげなく思いや意向をお聞きしています。また、それをケアプランに反映するためにセンター方式を使用し、ご本人本位になるよう努めています。	
			(外部評価) 職員は「利用者個々の気持ちは、その時々に分かってあげたい」と話しておられた。「家に帰る」と言われていても、お話を聞きしているうちに、ご本人の不安が軽減して、帰りたいと言われなくなることもあるようだ。日々の中で、職員が得た情報は「申し送りノート」に記入し、担当者が「基本情報シート」にまとめ、さらに「アセスメント表」に転記して、ご本人の意向等の把握や共有に努めておられる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にこれまでの暮らし方を確認し、入居後も繰り返しご本人やご家族のお話を参考に確認しております。その情報を基本情報シートに記入しスタッフ誰もが確認できる仕組みを作り、半年に一回は情報の見直しを行っています。また、お話でお聞きした内容はその都度に個人記録や申し送りノートを活用し、情報を共有しています。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々、個人記録にその日の過ごし方を記録すると共に、ケアプラン更新時には24時間の過ごし方でご自分で出来ることと援助を必要としている事に分けて情報収集と整理を行っています。また、ご利用者様一人一人に合わせた援助目標をウィークリーで立て、日々それを振り返る事で一日の過ごし方の現状把握に努めています。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ご家族の方々と話し合えるよう、面会時には必ずスタッフが近況を話し、その際にご家族のご意向があれば申し送りで伝達を行っています。それらの情報も活かしながら担当のケアプラン立案者を中心にまとめていき、月に一回のミーティングで必要な方の個別カンファレンスを行い介護計画を作成しています。</p> <p>(外部評価) 利用者個々の担当者が、他職員からの情報やご家族の意向を「私らしいあり方・私の安心、快・私の力の発揮・安全と健やかさ・馴染みの暮らしの継続」という項目に沿って「立案シート」に整理され、それらを基にして話し合い、介護計画を立てておられる。利用者・ご家族の意向は、ご本人の言葉をそのまま記載されている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) ケアの実践、結果、気づきなどは、個人記録に記入すると共に申し送りノートを作り職員間で情報を共有し、担当のケアプラン立案者を中心にまとめていき、月に一回のミーティングで必要な方の個別カンファレンスを行い介護計画を作成しています。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 遠方におられるご家族様に対して、電話やFAXを使って日ごろから状態のご報告をすると共に、写真やお手紙をお送りしています。また、その時々のご本人の喜びや悲しみといったお気持ちが直接伝わるよう、お電話にはご本人にも出て頂くようにしています。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 重度化においては、ご本人にとって必要があれば、訪問看護ステーションを介護保険だけでなく医療保険適用の訪問が可能でないかとかというご相談を行うこともあります。また、活動面でいろいろな方との交流が望ましい方にはデイサービスの利用を検討する事もあります。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>入居前にかかられていたかかりつけ医で可能な方には継続を して頂くなど、ご本人やご家族の希望を優先しています。 かかりつけ医と事業所との関係作りに努めると共に、ご家族 とかかりつけ医が関係を築けるように調整を行い、ご本人と ご家族の希望が、関係する医療機関にしっかり伝わるよう努 めています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居時に、ご本人、ご家族とかかりつけ医の希望をお聞きし て決めておられる。ご家族が付き添って以前かかっていた病 院を受診される方や、協力医の往診を希望される方もある。 歯科医の訪問診療を受けることも可能になった。</p>	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> <p>訪問看護ほかと契約を行い、週1回の健康チェックで個々の今の状 態を伝え、相談に応じてもらっています。何か異常があれば、随時 FAXや電話で対応できるようにマニュアルを活用しています。 一ヶ月に一回の医療連携会議を設け、個々のご利用者全員について 気付きや相談を行っています。また、新規入居の方など必要に応じ てリハビリスタッフによる身体機能の評価を行い、生活の中で求め られる身体の動きについての確認を専門職と行っています。</p>	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>何度か病院に行き、ご利用者様を励ましたり、ご家族 の希望の把握や情報の共有を図るようにしています。 また、病院関係者と情報交換を行い、経過の把握に努 め、退院時の支援体制を職員と話し合っています。</p>	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>ご契約の際に必ず重度化に向けての方針をご説明しています。そし て、実際にご利用者様の状態が悪化された時は、なるべく早い段階 でご本人とご家族の希望を確認しています。 ホームでの支援をご希望された際は、ホームで出来る事と出来ない 事、今後のご本人の暮らしぶりや予測について医師、看護師、ご家 族、管理者でつとつど話し合いの機会を持てるようにしています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居の説明時、ご本人が重度化した場合の話し合いを 行っておられるが、ご本人の状態によって、ご家族の 気持ちが変わることも踏まえて、主治医を交え、具体 的に看取りの話までの事例等も交えてお話をされる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年に一回、救急救命の研修にユニットで一名が参加し、それを全スタッフに伝達で講習するようにしています。また、事業所として独自の勉強会を行い、認知症の高齢者の方が起こりやすい事故(行方不明・転倒・やけど等)の予防と応急処置の勉強会を年に一回行っています。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に二回は防災訓練を実施しています。初期消火や通報といった避難の手順の確認を職員とご利用様が共同で行っており、それらの訓練を運営推進会議のタイミングで行う事で地域の方にホームの状況を知って頂くと共に、協力体制について一緒に確認を行っています。 (外部評価) 夜間の火災を想定して避難訓練を実施されている。運営推進会議時と抱き合わせで行い、地域の方もともに訓練に協力していただいた。近所の方は、通報すると駆けつけてくれるようになっている。地震の場合は「揺れが収まるまでは外に出ず、その後、西野公園・荏原小学校へ避難する」ことになっている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 親しみやすさにも気をつけながら、丁寧な言葉を大切にしています。居室へ入室する際は「～のためにお部屋に入りたいんですが、構いませんか?」といった声掛けを必ず行うようにしています。お部屋一つ一つがご利用者様のお家であると考えてケアを行うようにしています。 (外部評価) 地域に向けての「むく通信」には、利用者を遠景に写っている写真を載せるようにされており、ホームや行事の雰囲気や伝えられるようにされている。ご家族に了解を得た上で、通信を近所や子供会、市役所に配布されている。調査訪問時、職員は、利用者のその時の様子等に応じて声かけに配慮されていたり、利用者の小さな声にも、表情や態度等でご本人の意向をキャッチしておられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) どちらが好きなのかという選択を頂いたり、何が好きなのかという質問をしたりと、その方にあったご希望の聞き方を工夫し、ご自分の意見が発言しやすい環境作りに努めています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 散歩やお出掛けが好きの方もあれば、そうでない方もおられ希望は様々ですので、まずは、ご本人の思いをお聞きし希望に添いながら日々の生活に刺激や気分転換への支援に努めています。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その日に着る服を選んで頂きながらも、こま目に確認して清潔な服装でいられるように支援しています。馴染みの美容室に行ったり、行けない方は訪問の美容師さんをお願いしたりしています。ご本人やご家族の希望によって、お化粧品を毎朝支援させて頂く方もおられます。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎食、作る前にご利用者様に「今日は、何を食べましょうかネ・・・」とお聞きし、その時に食べたい物や季節感を取り入れたメニューを考えて実施します。調理や盛り付け、片付けなどその方の能力にあった参加をして頂き、食べる楽しみや意欲、満足感を持って頂けるように工夫しています。	
			(外部評価) 調査訪問時、利用者は職員と一緒に食事の盛り付けをされたり、食後には下膳・片付けをされていた。食後にお茶を「もう一杯いかが？」と勧めて回っておられる利用者もみられた。今朝、菜園で採れたきゅうりが、お昼の食卓に上っていた。入居前、よく外食されていた方は、時々職員と回転すしや中華料理を食べに出かけておられ、居室のカレンダーには、外食予定と書いておられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) バイタル表に、食事量と排泄、入浴、検温、血圧、臨時薬といった情報が個別にシート化されており一目でここ数日の状態が確認できるようになっています。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 朝夕の歯磨きをしっかり確認しており、必要に応じて昼食後の確認やケアを行っています。ご本人が自分で歯磨きの管理をされている方も、プライドを傷つけないようにさり気なく行っている様子を見て確認を行っています。それによって、実際に口腔内の清潔が保持できているかは、必要に応じて往診の歯科医さんが、確認して下さいます。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄のパターンをしっかりと確認して、何時だから誘導というケアではなく、何時に排泄があったかを重視し、その後の訴えや表情、身体の様子を観て誘導する事で不必要なおムツを使用しないケアを行っています。自分で行ける方には、声掛けのみで対応するなど、自立に向けた支援を行っています。	
			(外部評価) ご自分がトイレに行っていた利用者が、失敗するようになった時には、いろいろな視点から観察して、ご本人ができることをアセスメントして、いきなり紙パンツにすることなく、感覚等も大事にして支援されている。「トイレ誘導を習慣的に早目にしてしまうと尿意を感じなくなってしまう」こともあり、排泄の間隔等も把握し、ご本人の素振りにも注意して、ご本人の力を活かして気持ちの良い排泄ができるような支援に努めておられる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分の摂取量に注意したり、寒天など便秘に良いものを摂って頂くなどの工夫を行っています。食事も、魚、野菜とバランスよく取り入れるようにしています。便秘の方は、排泄時に腹部のマッサージを取り入れています。日常生活の中でしっかり身体を動かせるタイミング(洗いのもの、散歩、食器拭き、おやつや食事作りなど)を多く持って頂くようにしています。	
			(外部評価) ご本人の希望をお聞きし、可能な限り希望にお応えするようにはしていますが、時間帯や順番がスタッフの都合になってしまう事があり、その都度に話しあっています。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ご本人の希望をお聞きし、可能な限り希望にお応えするようにはしていますが、時間帯や順番がスタッフの都合になってしまう事があり、その都度に話しあっています。	
			(外部評価) 基本的には、利用者の希望に合わせた時間に入浴できるようになっている、現在は、昼間より夕方に入られる方が多く、1番風呂に入りたい方、2番目以降を好まれる方等さまざま、夜8時に入浴すると決めておられる方もある。必要に応じてシャワーキャリーを使用しておられ、利用者が椅子に座ったまま浴室に移動して、シャワーできるように支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ご高齢のため、お疲れになりやすい方や、夜間の睡眠が十分でなくその事をご本人が理解できずお疲れなのに頑張っておられる方には、こちらからさり気なく休息をお勧めするなど、その時の状況に応じて支援しています。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) お薬の変更時には、何故変更があったのかを医療ノートに記入してスタッフ全員が確認しています。その上でフェイスシートのお薬の説明書きを確認し注意してその後の症状の変化を見守っています。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その方の生活スタイルを生活歴などから情報収集し、その上で一日の家事をご本人と協力しながら支援したり、買い物やドライブ、散歩などその時の気持ちと体調をみて支援するようにしています。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご近所の散歩は、毎日お一人お一人の状態に合わせて支援をし、ご希望があれば可能な限りそのタイミングで外出支援が行えるようにしています。 ご家族に外来受診を協力して頂く中で、何処か行きたい所があればご家族にも提案させて頂いています。(「お買い物に行きたいと言われていました」など) (外部評価) 利用者ごとに行きたい所もタイミングも違う中で、職員もできる限り利用者に合わせた外出ができるよう努めておられる。誕生日にご希望のタオル美術館へ出かけたり、松山劇場で演劇を見て、食事をして帰ることもある。「目で見て楽しい場所」への希望が多く、県の緑化センターや七折の梅を見に出かけたり、三坂峠をドライブされることもある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) その方の状態に合わせて、可能な限りお金を持って頂く事を大切にしています。ご本人が手持ちでお金を管理する事で、残高が合わなくなる方は、ご本人の気持ちを傷つけないようさり気なく手持ちのお金の残高を確認し、次回の外出で変動がないかスタッフ同士で確認を行っています。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) スタッフがご家族に電話で伝達がある際は、ご本人への電話の取り次ぎも行うようにしています。また、ご本人の希望やスタッフとの会話の中でご家族との話題があるなど、その時の雰囲気が必要であればタイミングを逃さず電話するようにしています。季節に合わせて年に4回お便りとお写真をお送りし近況をご報告しております。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>その時季にちなんだ飾り物をしたり、花を飾ったりして四季を感じて頂く工夫をしています。それと、暑い日や寒い日には特に気をつけて常に温度と湿度の管理に気をつけています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関前には花畑があり、となりにはいろいろな種類の夏野菜が育っていた。ボランティアの方が手入れを手伝ってくださっている。ウッドデッキには、燕が巣があり、雛が孵っていた。玄関には西野町婦人会の方が作成した水彩画の作品が飾られており、2か月に1回掛け替えに来てくれている。ユニット入口には、職員紹介の顔写真が掲示されており、ご家族や来訪者が見ておられるようだ。テレビや外の景色がよく見えるようにソファが置かれており、窓を開けて風通し良くされていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>食事の時は、ほぼ個別に座席が決まっていますが、それ以外の時は自由に空いている席に座れます。また、ソファも一人掛けと二人掛けと三人掛けの三種類設置しているのでテレビを見たり会話をされたりする時に好きな場所に座って過ごす事が出来るように配慮しています。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ご自分の居室に入られたら落ち着くような環境作りとして、ご家族様が持って来られた物を飾ったり、入居前から使用されていたテレビやラジカセを置かれています。壁には絵や写真、誕生日の色紙などを飾っています。また、なるべくご自宅で寝られていた状況と同じようにして頂き、ベッドか布団を個人に合わせて選択して頂いています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>長年使用されていた鏡台を持ち込んでおられる方は、化粧品を使う日と使わない日があり、バロメーターになっている。娘さんからの絵手紙を壁に飾っている方や、押し入れの筆筒の上をテーブルのように使っている方もあった。ご本人の立ち上がり時の機能等も考慮して、必要性に応じてベッドを使用されている。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>おトイレは赤いドアで識別しやすくしています。いつでも、どこでも個人で手を洗ったら自分で拭けるようマイタオルをご用意して頂いています。車いすの方でも立ち上がりの際は、手すりを使ってなるべく自分の力が発揮できるように、声掛けによるケアを重視しています。また、その方が出来ない事も、全てスタッフがするのはではなく、その日その時に分からない内容をその都度、口頭で分かりやすく説明することをミーティング等で毎月確認しています。</p>	